

## 和光会会報No. 53

—菱電サービス（菱サ）～三菱電機ビルテクノサービス（MELTEC）本社OB会—

### ◆「第16回総会」開催のお知らせ

和光会総会を次の日程で開催することに致しましたので皆様のご出席をお待ちしております。  
今回開始時間を13:00に変更しました。

- ・ 日時：平成30年6月16日（土）13:00～15:30
- ・ 場所：東京都荒川区荒川7-19-1 システムプラザB館 8F 大会議室
- ・ 会費：3,000円

今回も前回同様イベントとして和光会会員の日頃の活動状況を紹介するため、趣味の作品の展示コーナーを設けることにいたしました。パッチワーク、版画、写真、絵画、書道、墨絵、彫刻、陶芸、著書、論文、雑誌への掲載記事などご紹介したいと思います。この機会に、是非仲間へ作品の披露をお願い致します。

展示される方は、作品を当日持参され、総会開始前の11:30～12:00に所定の場所に展示し、総会終了後お持ち帰り願います。

なお、展示スペース準備のため総会案内の「返信はがき」に下記の事項をご記入願います。

1. 作品のジャンル（例えば、書道、写真、油絵など）
2. サイズ [縦 ×横 ×高 ]（展示スペースはお一人当たり180×60cm机1つ分以内）
3. 展示に関し事務局への要望

また、展示に関して不明な点は下記事務局にお問い合わせお願いいたします。

MTB和光会事務局

TEL：03-3802-9530

メールアドレス：[meltec-OB-wakokai@mtb.ssg.meltec.co.jp](mailto:meltec-OB-wakokai@mtb.ssg.meltec.co.jp)

今回も支社OBとの交流を図るべく、支社OB会にも和光会総会・懇親会を紹介し、支社OBのメンバーも参加できるようにいたします。

前回同様、総会の詳細への参加につきましては総会案内の「往復はがき」にてMTBより別途ご案内申し上げますので、日程だけ抑えておいてください！

### ◆ 浄土の幻想(白水阿弥陀堂に想う)

…… (2018-03) —山本 拓弘（馬骨）さんから投稿頂きました—

今年(2017年)の東北の春を訪ねる旅の最初の向かい先は、福島県いわき市にある白水阿弥陀堂だった。何故か浄土庭園を見たいと思ったのである。そして我が家から最も近い場所にあるのが、この白水阿弥陀堂なのだ。真老世代(75歳～85歳)ともなると、時々あの世のことも考えるようになる。今の世の科学万能の時代では、あの世などある筈がない、と一方的に無視する嫌いがあるようだが、何千年もかけて人々が描いて来た死後のあの世は、科学などでは辿りつけない不思議の彼方に厳然しているのではないか。この頃そう思う気持ちが強くなって来ている。

平安時代の末期の頃から、人々の間で浄土思想というものが強くなりだしたという。仏教の世界において、或いはそれ以外の宗教においても、この世の終わりが来るという恐怖に取りつかれた末世の思想が浮き沈みするのだが、浄土思想の蔓延はそれを裏付ける一つの歴史の証なのかもしれない。この世の終わりというのは、世の中が余りにも汚れてしまっているというのが、一つの大きな要因となるのであろう。平安時代というのは、その名の持つイメージとは異なって、時間が経過するにつれて平安から遠ざかり、やがてはそ

の汚濁の行く先に、この世の終わりへの恐怖を感じた時代なのかもしれない。

それゆえにこそ、人々はこの世では望めない極楽浄土という安寧の世界を求めたのであろう。そして、それを現実の世界に描き、出現させようと考えて創り出されたのが、浄土庭園といわれる様式の園池を有する寺院だったのだと思う。

人々（と言っても権力や財力を備えた人物に限られるわけだが）は、汚濁した現世の苦惱から逃れるために、或いは汚濁した現世の中に没した人を慰めるために、永遠の安寧が保障される世界を描き、それをこの世に創り出そうと考えたのであろう。宗教というものもたらす人間の執心は、祈りだけにはとどまらず、何か形ある物を見出そうという、そのようなエネルギーを内在させているように思う。それがどのような形で実現しているのかを示すのが、即ち浄土式庭園と呼ばれるものなのだと思う。

自分は京都にはあまり馴染みがないため、宇治の平等院を除いては、関西エリアでこの様式の寺院を見たことがない。それゆえ、浄土庭園の姿は、奥州平泉の毛越寺や福島いわき市の白水阿弥陀堂などを訪ねて確認しているのだが、とりわけて白水阿弥陀堂に往時の建立者の浄土というものに対する思いを汲みとることが出来るように思っている。毛越寺の方は、規模が大き過ぎて浄土からは少し遠い感じがするのだ。寺院の規模が大きく豪勢になればなるほど、そこに創り出された姿は、本物の浄土というものからは遠ざかるような気がしてならない。

白水阿弥陀堂を訪ねるのは三度目だったか。ここへ来た時は、平安末期の世の中のこと、その頃の自然環境の様子などを目一杯想像を働かせて思い描くことにしている。往時のこの辺りは、恐らく原生林に近い山野の中にこれらの建物や池などが造られたのではないか。春の今頃の季節は、池を囲む樹木たちの中には山桜の雪洞が灯り、萌えだした若芽の香りが漂う中に、池の中に影を落とした阿弥陀堂の建物がひっそりと



願成寺の白水阿弥陀堂（国宝）の景観。正面参道から撮ったもの  
佇み、その中では阿弥陀如来と中心とする幾体かの仏たちが浄土への導きを祈っている。そのような情景が思い浮かぶ。

そこに描かれている浄土の姿は、唯ただ大自然に取り込まれて、安寧の中に永遠に息づく心が休む、そのような景観だったのではないか。白水阿弥陀堂は、その姿を容易にイメージさせてくれる場所なのだ。境内を歩きながら、時々立ち止まって眺めたりしながら、想像は膨らみ続ける。

建立した藤原清衡の娘の徳姫の亡き夫に対する思いとはどのようなものだったのか。往時の岩城氏の力とはどれほどのものだったのか。藤原家との関係はどうだったのか。治世の状況はどうだったのか。なにゆえに徳姫はこの寺の建立を思い立ったのか。様々な疑問が湧き起こってくる。本来そのような疑問を抱くの

は、浄土を目の前にしては、真に不謹慎なことなのかもしれない。

＜白水阿弥陀堂は、奥州平泉の藤原三代の祖である清衡の娘（徳姫）が岩城氏に嫁した後、夫に先立たれたのを供養するために建立した願成寺の一角に阿弥陀堂を建てたのがその元となっている。名称の由来は、平泉の泉という字を白と水とに分けて、白水（しろみず）としたことによるもので、建立したこの地を平（たいら）と呼ぶことにした＞



白水阿弥陀堂の景観。これは西側遊歩道から撮ったもの。  
右手が参道の入り口となる

我に返って、ああ、自分は今現代にいるのだっけ、と気がつく。そして思うのだ。今の世も同じように末世が近づいている

のではないかと。しかも、それが近づく速さは、千年前とは比較にならないほどのスピードで迫っているのではないかと。平安末期の人たちには、この庭園のような浄土を描く力があつたのだが、現代人は、果たして浄土を描く力を保有しているのだろうか。

残念ながら私自身、今それを描く力は全くない。浄土が見えないのだ。今の世に、もしそのような力を持つ人物がいたとしたら、一体どのような浄土を描くのだろうか。

この千年の間に、人間は、安らぎを与えてくれるはずの大自然を、世界規模で破壊し続けている。奢りと思いがかりを膨らませ続けている者が描く浄土は、大自然とは無縁の、人工物に溢れる偽物に満ちた世界なのかもしれない。そのような世界に馴れ出している者には、本当の浄土を描くことなどできないのではないかと。今、現代人は、浄土から見放されつつあるのではないかと。白水阿弥陀堂の浄土景観を眺めながら、ふと、そのようなことを思った。

（2017年東北春の旅から）

#### ◆ 会員の趣味のコーナー

会報No.5 1より第15回和光会総会の展示作品をご紹介しますが、事務局の手違いで和光会会報No.5 1とNo.5 2に同一の作品を掲載し、ご迷惑をおかけしました。今回残り5名の方の作品をご紹介します。

今回もこれらを始めた時期（年数）・動機、作品を制作しての喜び（感動）、苦労したこと、「他に組んでいる趣味」などを含めて紹介いたします。

なお、出展出来なかった方の作品・趣味についても出来るだけ順次ご紹介をしていく予定です。

#### ◆ 油絵・書道

…… (2017-06) 笠井 宗男さんから投稿頂きましたー

＜近況＞

今年3月末で勤務を終了しました。書道は地元公民館と勤務地であった板橋区立郷土芸能伝承館で講師として指導しています。昨年より、毎日書道展に出展するようになり、今年は2回目の入選となりました。絵は地元公民館のクラブで、その他家庭菜園、たまに囲碁などを楽しんでいます。

油絵 (2点)

①「暮秋」 (F8号)



昨年11月下旬に老神温泉に泊まり吹割の滝まで歩いて散策、途中片品川の支流の橋の上からスケッチしたものをもとに帰ってから絵にした。暮行く秋の情景を意識して描いた。

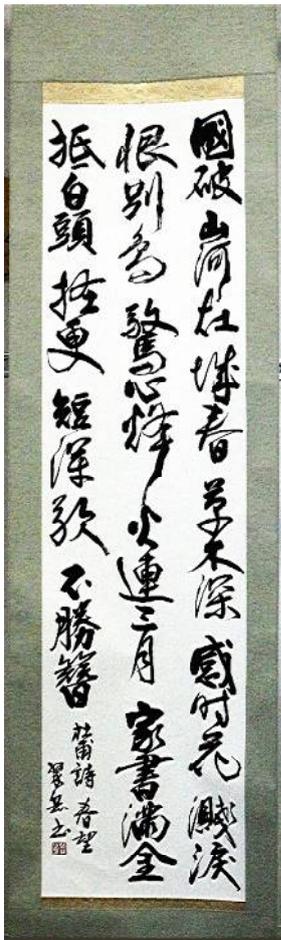
②「新緑の箱根路」 (F30号)



もとの絵は数年前に描いたものであるが、昨年の6月初旬にクラブで写生に行き、新たな感覚で修正し、今年の4月のグループ展に出展したものです。

書道 条幅

毛筆掛け軸「春望」 杜甫の詩(五言絶句)



高校1年の漢文の教科書に載っていた五言絶句です。有名な漢詩なのでご存知の方も多いと思います。

国破山河在 城春草木深  
 感時花濺淚 恨別鳥驚心  
 烽火連三月 家書抵萬金  
 白頭搔更短 渾欲不勝簪

国破れて 山河在り  
 城春にして 草木深し  
 時に感じては 花にも涙を濺(そそ)ぎ  
 別れを恨(うら)んでは 鳥にも心を驚かす  
 烽火三月に連なり  
 家書万金に抵(あた)る  
 搔白頭(か)けば更に短く  
 渾(す)べて簪(しん)に勝(た)へざらんと欲す

注 家書 家からの手紙  
 簪 くしのこと

◆ 日本画

「波浪」(日本画F10号)

..... (2017-06) 布施 昌義さんから投稿頂きましたー



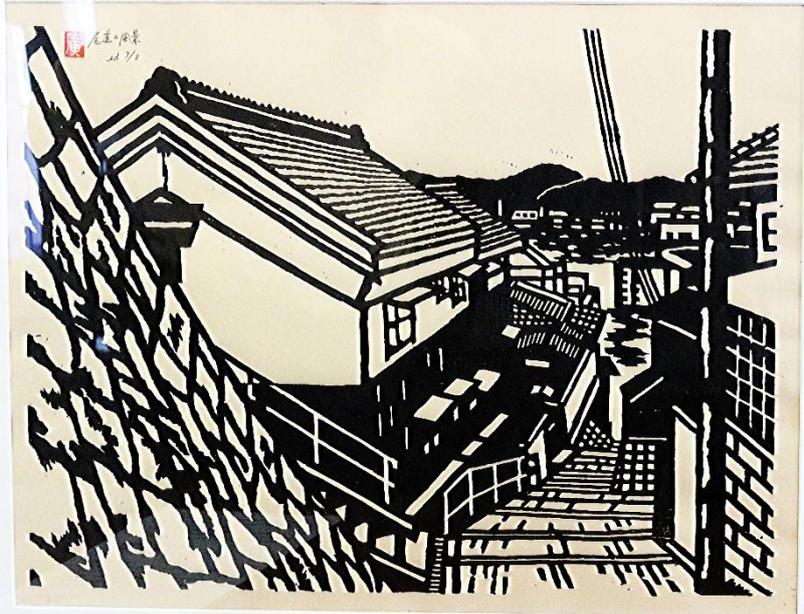
日本画を始めてから7年ほど経ちますが、年の4~5点程度しか描いておらず30点くらいの作品数です。風景画を中心に描いていますが、今回はじめて海そのものを描きました。特にスケッチに出かけたのではなく、テレビの旅番組を録画してそれを参考に描きました。波が大きく押し寄せる様を描くのに苦労しました。

◆木版画 2点

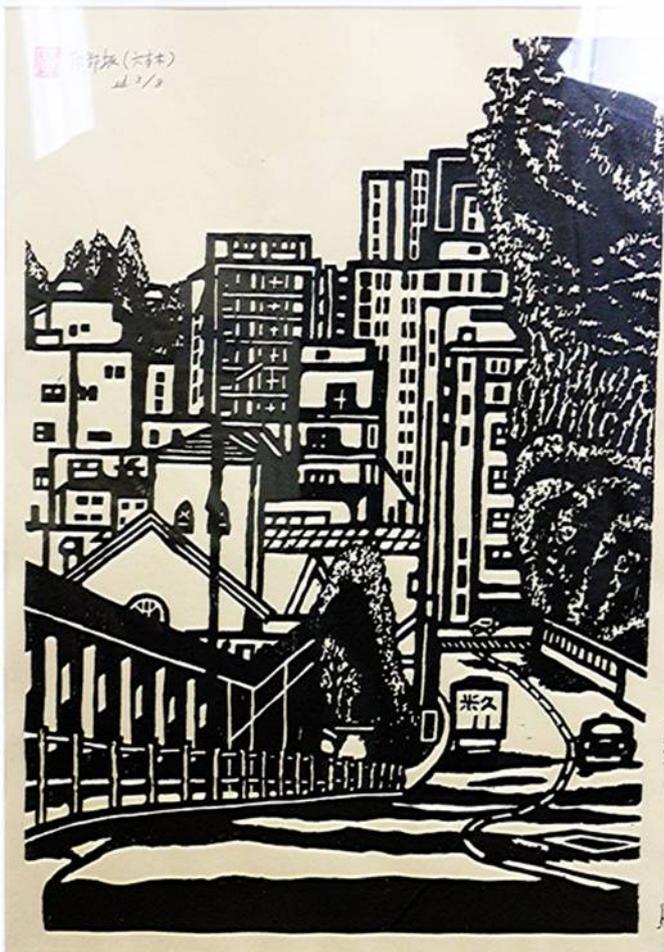
..... (2017-06) —鈴木廣行さんから投稿頂きました—

①「尾道の風景」

昭和62年からの広島での単身赴任中の気分転換は土・日曜日尾道まで足を延ばし坂道散策で汗をかくことでした。尾道水道の向こうに向島を見る風景は今でも心に残る素晴らしい風景でした。その当時の写真をもとにスケッチをし、白黒版画に表現してみました。久しぶりに又訪れてみたい気持ちが湧いてきました。



②「南部坂 (六本木)」



都内には2つの南部坂があります。1つは忠臣蔵で有名な港区アメリカ大使館宿舎脇の南部坂、もうひとつが、南部家が転居した六本木有栖川宮記念公園近くにある南部坂です。ここは写生ポイントらしく写真を撮りに行った当日も二人の方がスケッチをしていた。近代的な建物の風景を木版画で表現するのは難しいがどうにか思いを形にすることが出来た。

◆油絵 2点

..... (2017-06) —中村弘道さんから投稿頂きました—

①「樹霜」(F30号) 2016.11

\*2017. 2 県展第 31 回鎌倉展出展



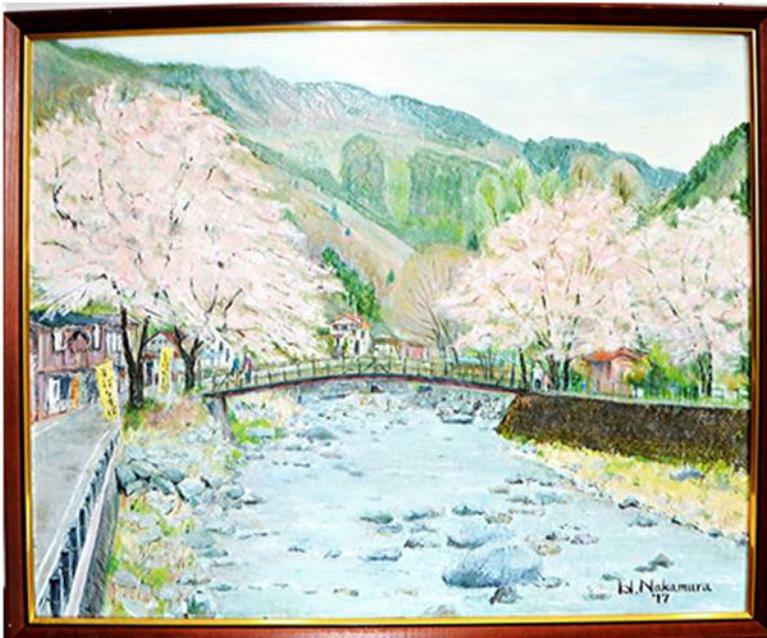
好きな山歩きで出会った風景を描くことが多いこの頃です。

昨年 11 月韓国の知異山 (1,915m) では、早朝小雨と強風という天候の中を登頂開始！やがて山の神？に助けられ、急転朝陽の射すご覧の景色『樹霜』に遭遇しました。

スケッチはできませんが、大変感動的なモチーフなのでカメラに収めて描いたものです。

雲の下方からさすオレンジ系の朝陽、夜間に吹雪いて樹枝・草木に付いた霜 (樹霜)、かくも幻想的な風景を再現しました。

②「道志みちの桜」(F20号) 2017.04



毎年桜の季節が訪れると桜を題材に絵を描くことにしている。

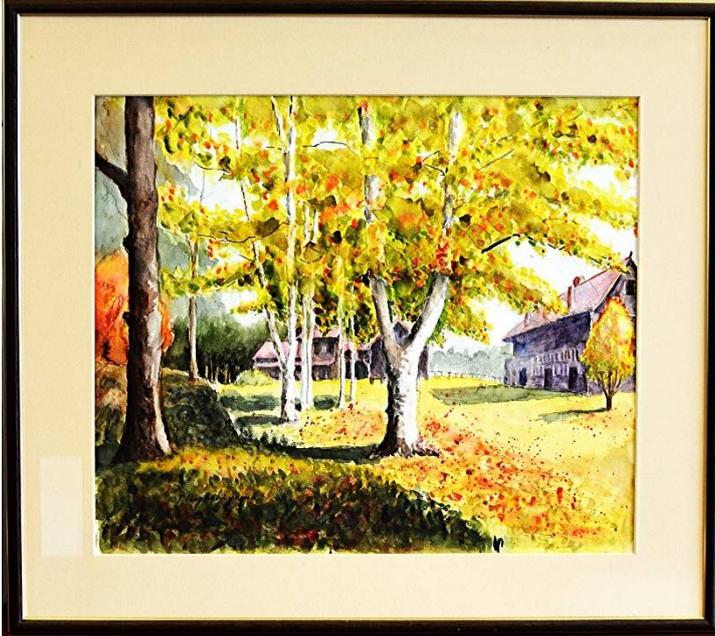
今年は 4 月も中旬になって山行 (山梨百名山・今倉山) で“道志みち”を走った時、道志川縁に立派に咲く桜に出会い途中下車で簡単なスケッチをしてから描いたものです。

新緑の山間を背景に道志川のゆったりした流れと満開の桜がバランスよく構成する様、構図と春らしい彩色に注力しました

◆水彩画 3点

..... (2017-06) —東山 孝幸さんから投稿頂きました—

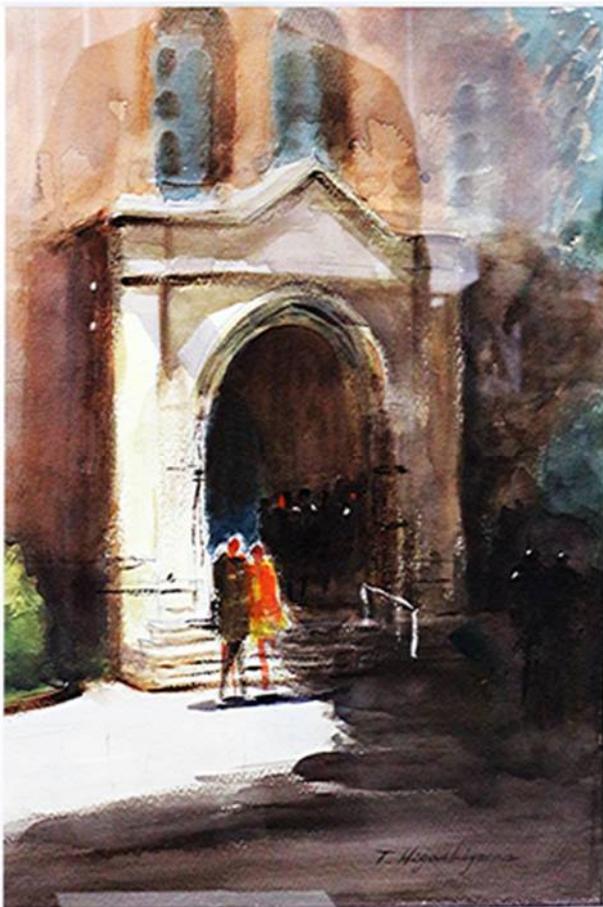
①「北の秋（北大牛舎）」 2011-11 1539 作品目



この作品は6年前の作品で、北海道から沖縄まで、国内のスケッチポイントを求めて充実したスケッチ旅をしていた頃の作品です。

この作品は2012年正月、習志野市の新春展に出展し、来場者の投票結果最優勝をいただいた、思い出の作品です。

②「図書館（慶応大学）」 2016-10 2138 作品目



2000枚目の作品あたりから従来の作風に行き詰まりを感じ、新しい変化を求めて工夫しておりましたが、そんな中で手ごたえを感じたのが、この作品で、慶応大学図書館前には6回連続で足を運び、目指す“光”と“カゲ”を描いた6枚のうちの1枚です。この年の秋の習美会初秋展で大変な評価を受け、変化の手ごたえを感じた作品です。

③「開港記念館」 2016-5 2302 作品目



画風の変化を決定づけたのがこの作品で、習志野市新春展に出展したところ、ダントツの得票をいただき、変化への自信を深めた作品です。今年5月の個展でもプロの先生方から高い評価をいただきました。

◆ カレンダーの追加・手帳の頒布について

カレンダーは毎年年末に会員宛1部送付しておりますが、カレンダーの追加・手帳の頒布をして欲しいとのご要望がありましたので、2016年分から有償申し込みを受け付けることに致しました。

2019分をご希望される方には下記方法にて頒布いたしますので郵便局払込取扱票（振込用紙）にて必要部数をご記入の上来る**2018年6月29日（金）期限厳守**にて下記口座にお振込願います。期限に遅れるとMELTEC宛追加発注できませんので期限厳守でお願いいたします。

年末カレンダー送付時同封にてご送付いたします。

なお、カレンダーの単価を昨年同様といたします。

1. カレンダー 1部 ￥500

2. 手帳 1部 ￥250

郵便局払込取扱票（振込用紙）の書き方

① 口座番号：00100-7

② 口座記号：650896

③ 加入者名：和光会

④ 金額

⑤ 通信欄・ご依頼人

カレンダー、手帳をお申し込みの方はそれぞれの<商品冊数><合計金額>をご記入ください。

おところ・おなまえ・ご連絡先電話番号をそれぞれご記入ください。

◆ 訃報ご報告

下記会員の方がご逝去されました。ここに改めて哀悼の意を表し、謹んでご報告申し上げます。

山岸 邦光氏（2018年1月2日ご逝去）（享年76）

なお、故山岸 邦光氏は1960年（昭和35年）に入社され、本社 業務部 冷凍機課配属後、本社、東京支店、東京東・西支社等で冷熱保守、冷熱営業、冷熱工事営業等にて技術担当として活躍され、2002年（平成14年）3月定年退職。引き続き嘱託として勤務され、2003年2月に退職されました。

◆ MELTEC 情報

○ MELTEC役員人事—2018年4月1日付で次のとおり役員人事が行われました—

	新	旧	氏名
就任	常務取締役 本社 昇降機保守事業本部長	取締役 首都圏第二支社長	一條 靖久
就任	常務取締役 首都圏第一支社長	取締役 首都圏第一支社長	高倉 義行
就任	常務取締役 本社 ファシリティ事業本部長	取締役 本社 ファシリティ事業本部長	北原 博史
新任	取締役 本社 安全衛生本部長	役員技監 本社 安全衛生本部長	鈴木 祥太
新任	取締役 首都圏第二支社長	役員理事 関越支社長	向山 達也
新任	取締役顧問（経營業務管理責任者）	顧問	西山 秀樹
退任	<菱電エレベーター施設株式会社 取締役社長>	専務取締役 本社 昇降機保守事業本部長	杉田 和彦
退任	<沖縄菱電ビルシステム株式会社 取締役社長>	取締役 本社 経営企画室長	神尾 健二

◆ 事務局より

- 和光会会報No.34より「くるま旅くらし心得帖」の山本拓弘氏よりくるま旅についてご投稿いただいておりますが、今回は「2017年東北春の旅から」を投稿いただきました。

なお、山本拓弘氏の「くるま旅くらし」の最近の様子は下記ブログに載っておりますので是非ご覧ください。

<http://blog.goo.ne.jp/vacotsu8855>

「山本馬骨」で検索しても可能です。

- 「会員趣味のコーナー」では第15回和光会総会の展示作品の中から、常連となりました笠井宗男さんの油絵・書道、布施昌義さんの日本画、東山孝幸さんの水彩画、それに昨年出展されなかった鈴木廣行さんの版画、久しぶりの中村弘道さんの油絵と5名の方の作品をご紹介させて頂きました。

なお、佐々木憲一さんの「当社と和光会のあゆみ」（スライドショー）は誌上では十分紹介することができませんので、詳細をお知りになりたい方は事務局にご連絡ください。

・ 和光会の連絡・問い合わせ窓口について

第6期より会社（人事部）が和光会を全面的に支援して下さることになり、OB会事務作業（会員との連絡・通知、1194・カレンダーの送付等）を人事部の委託によりMTBにお手伝いいただき、MTBの担当は総務・人事支援部（部長：田辺 直樹）で変わりありませんが、会報No.42でご連絡しましたように今期より連絡・問い合わせ窓口は一部下記のとおり変更になっております。

担当：木村 律子BD、井手 信彰、佐々木 敏行、大澤 淳子

電話：03-3803-8865（代表）

FAX：03-3803-8875

E-mail：[meltec-OB-wakokai@mtb.ssg.meltec.co.jp](mailto:meltec-OB-wakokai@mtb.ssg.meltec.co.jp)

住所変更等通常の連絡・問い合わせはMTBの上記和光会担当か、和光会事務局（寺門）で済むと思いますが、会社の人事部の窓口は年金・基金を担当している方で次の通りです。

担当：大塚 勝則 SK

電話：03-5810-5392（ダイヤルイン）

FAX：03-5810-5501

E-mail：[oheki.katsunori@meltec.co.jp](mailto:oheki.katsunori@meltec.co.jp)

・ 2018年度会費納入対象の方宛に「1194」「和光会会報」送付時振込用紙を同封いたしますので、会費「4,000円（2年分）」を次の口座宛に振り込み賜りたくよろしくお願い申し上げます。

郵便局払込取扱票（振込用紙）の書き方

振込先：郵便局

① 口座番号：00100-7

② 口座記号：650896

③ 加入者名：和光会

④ 金額：4,000円（カレンダー不要の方は3,000円）

⑤ 通信欄・ご依頼人

おところ・おなまえ・ご連絡先電話番号をそれぞれご記入ください。

・ E-MAIL 会員各位へは INFORMATION をお送りしておりますが、未だ不達がありますので、メールアドレスの変更時は速やかにご連絡をお願いいたします。

また、添付資料がないとの連絡を頂くこともありますので、そのような場合は事務局あてご連絡ください。

携帯電話のメールでは添付資料送付は無理ですのでその旨ご連絡ください。今後は印刷物をご送付致します。

・ 「和光会会報」・「1194」・カレンダーなどを会員宛送付しておりますが、宛所不在で戻ってくる場合がありますので、転居・住所表示変更等の場合は速やかにご連絡をお願いいたします。

皆様の日頃の活動やグループ活動などのお便り・投稿をよろしくお願いいたします。

2018-4-10 和光会事務局 寺門 三男

029-872-4122 [mitsuotera@jcom.home.ne.jp](mailto:mitsuotera@jcom.home.ne.jp)